

# ひょうはん

情勢判断学会 東京本部  
会員向けニューズレター  
発行人 古川 彰久  
事務局 〒252-0321 神奈川県  
相模原市南区相模台1-23-9  
Tel.&Fax.  
042-748-8240  
<http://www.jouhan.com>  
E-mail:info@iki2life.com

## 4月例会ご案内

日時 : 4月14日 木曜日  
18:30 ~ 20:30  
場所 : 港区立産業振興センター  
10階 会議室3  
参加費 : 1000円  
テーマ : 城野先生の「状況判断の行動学」  
の第二章「脳活用の東西比較」の前半  
演者 : 鵜殿 博文

### 第二章 脳力開発の東西比較

一日本人の論理・外国人の論理一

日本人の脳反応の特殊性

#### ●宗教はなぜ起こったのか

「苦しいときの神だのみ」「窮迫から抜け出させてほしいという神頼み」など神や仏に祈ることで生まれた。また、ユダヤ教やイスラム教は戒律がとてもしつかった。その理由は、分散した居住社会であったため、戒律を守るか守らないかで、的か味方かを区分して、一つの目的に対して集中させていた。

#### ●組織集団社会・日本

日本は、牧畜ではなく農耕社会であった為、はじめから共同生活が生存の基礎であった。そのために、日本人は組織としては強いが、個人となると弱い。もともとは神ではなく人を頼り病気も外傷も、漢方薬的薬物療法で治していたが、中央政権が確立してからは、疫病などが流行ると神に祈る事をするようになった。

#### ●中央を支えてきた地方

日本は中国やヨーロッパは他の国を滅ぼし時刻の文明を築いて北歴史とは異なっている。一部、滅ぼした歴史も有るが、地方を活かしてきた。この事で懦弱に思われるが、全国規模で行動する必要がある場合は、有力な実行ができる

#### ●日本語の言語構成

日本人の脳反応の特殊性は日本語という言語の構成にも現れてくる。言語は脳活動の外部表現

であり、自己行動を概念とし、これを音なり文字という形外部に表現し、他人につかえる伝える。英語はヨーロッパの言語は人の物に対する所有を関係をきちんと表現する。例えば「本をやろう」という言葉を英語にすると”I want to give him my booku”（私はわたしの本を彼にやろうとおもう）これを日本語でひょうげんすると「本をやろう」誰の本かという本の所有を気にしていない。誰の本が誰の手に渡るかということは大した問題にしていない。このことから、日本人は個人主義ではなく組織社会を構成してきたことが分かる。

#### ●知的レベルが高かった日本

日本人は1000年以上前から中央の文化層だけではなく地方にまで文字を読み書きできる知識人が多かった。それは一般民衆にまで広まっていた。幕末の頃には寺子屋が全国で約16000くらいあったことから庶民に対する教育も進んでいたことが分かる。そのため、明治の「文明開化」の時に西洋からの技術を多く取り入れて、それを吸収し、自分の力で製造し、設置するスピードも早かった。

#### ●「日本人」像のあやまち

日本人は太古から地方自治を革新として政治が運営されてきた。それはどのような中央集権ができて、それに関係なく地方の生活運営が立派に行われてきた。本来は脳の活動法則を把握し、変化させることができるものなのであるが、日本人の知識だけを教える教育がみんな同じように反応するものと無条件で決めてしまう脳を作り出してしまった。

#### ●まとめ

日本人は古くから受け継がれた組織集団社会で人と人が協力する素晴らしい脳力を得ることができました。しかしそれは皆が同じことを同じように感じるというのではなく、広い視野で考え新しい事を考えられるようにしていかなければと思いました。

## 2月例会報告

日時 : 2月10日 木曜日  
18:30 ~ 20:30  
場所 : 港区立商工会館  
テーマ : 1. 城野先生の「状況判断の行動学」  
の第四章(4)日本経済と高度成長の  
後半  
2. 今後の展開について  
演者 : 松本 友

今回は、国民規模の戦略設定から始めました。欧米並みに持っていこうという戦略がありました。そのための戦術を国民規模で考えられたのが日本の強さだったのかもしれませんが。今、日本を考えると欧米並みに、と頑張った結果、ある程度の経済成長を果たしてどこに向かうべきかがあまりわかっていないのかもしれませんが。

当時の戦術として、焼け野原からスタートした人々は、良い意味で自分たちより進んだものを真似し、ひたむきにより良い生活を目指して頑張ることができました。更に、発展に伴い働くだけでなく生活を楽しむ余裕もできました。例えばゴルフ、昔なら環境破壊だったり贅沢だったりしたものが、実際ゴルフ場ができてやってみたらとても楽しくあっという間に広がりました。

加えて、戦争から帰ってきた人々が、戦死した仲間を思い、残された意味を考え、ひたむきに日本のために頑張ったこともあると思います。つまり、内需拡大という戦略、国内で助け合わなくては生きていけなかったという背景もあります。ゼロから出発せざるを得なかったことも大きいかもしれません。

財閥が解体し、階級差別がなくなって誰でも教育が受けられるようになったことで、ヨーロッパと比べて教育が世界一になったという下りがありました。その後、非正規雇用が増えてしまって子供にしっかりとした教育を受けさせられない家庭が増えたことで成長が止まったのか。教育が変化できなかったのか。それとも親の戦略がなくなったのが大きいのか。高度成長期は、親が頑張って教育を受けさせて世の中を良くしようという気持ちが大きかった。今は、親に未来の戦略が持っていないのかもしれない。成長期は学費も比較的安く、能力があれば教育を受けるチャンスが今より平等にあったと考えられる。自ら学び、獲得していくものだった教育が、今は「与えられるもの」「当たり前を受けられてしまうもの」になってしまっているのかもしれない。

学費の安さ、奨学金をもらって頑張るという環境、目的を持っているというより早く親に楽をさせたい、恩返しをしたいという思いで頑張っていた高度成長期。今の時代は「親に楽をさせたい」という感覚はないかもしれません。つまり、親が豊かになったからと言えます。余裕ができて、良い時代になったわけですが、逆に子供のひたむきな頑張りを持ちにくい時代になりました。成熟しきってしまった日本の弱さでもあると感じます。

当時はまた、大学に行かなくちゃいけない、とか言うことはなかったとのこと。大学に落ちて高校を卒業しただけの人も、なんとかなる時代ではあったという意味では良い時代に思えます。それだけ、人生の戦略、国民としての戦略が持っていない今は迷いの時代かもしれません。終身雇用を実現したことも、我々の感覚を鈍らせてしまった部分もあります。貧しかった時代、安定を実現するために他国からも羨ましいと思われるくらいの終身雇用が成功したのに、逆にそこに安住して成長を求め、自分を磨くことを忘れてしまったのかもしれませんが。

先端技術の発展はめざましく、一部の人の手にする富が全人類の富の99%を占めると言われる現代。成功している社会主義とも言える日本。良いものをたくさん持っているはずなのに、行き詰まりの閉塞感を感じます。

国民のご機嫌をとるため、自分たちの票のために政治を考えてしまう政治家任せでは発展はないのかもしれませんが。高度成長期は国民全体で持った戦略を今、持てないのなら、個の力を高め、戦略を考え、個の力を束ねて今後の日本を考えて行くしかないのかなと思う今日このごろです。

